



「芹沢光治良『狭き門より』再刊記念」 ーヒロインの求める生き方ー

■日時 令和7年12月07日(日)
14:00~16:00 (受付13:30)

■会場 サロン・マグノリア (東中野)
(中野区東中野5-8-3)

■募集 40名 (予約制)

■参加費 1000円 (珈琲・茶菓子)



〈プログラム〉

【一部】

- (1)「狭き門より」簡単な紹介
- (2)朗読「ある作家の秘密」(“狭き門より”に関するエッセイ)
・朗読者：大窪 晶(おおくぼ あきら)
- (3)「NHKスタジオ102インタビュー(昭和51年)」
・「狭き門より」紹介の映像。

ー休憩ー (15分)

【二部】

- ・「参加者と交流」(作品の感想)



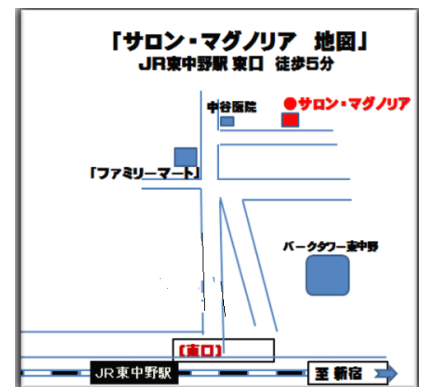
(大窪 晶)

【お申込/お問い合わせ】

参加者**40名**の予約制となります。
お手数ですが、参加希望の方は**12月3日**までに、
下記のEメール又は、携帯電話(C,SMS)メール宛
【お名前・ご連絡先】をお送りください。
メールを確認次第、ご連絡いたします。

財団 事務局長 池田三省
携帯電話：080-5088-1660

Eメール：ikedasa2002@yahoo.co.jp



■朗読者 紹介

○大窪晶（おおくぼあきら）

演劇集団円 俳優部所属。東西の古典劇から現代新進作家の書き下ろしへの出演、ピナ・バウシュ ヴツパタール舞踊団出身のダンサーとの協業など多岐に渡り活躍。

～主な出演作～

【舞台】

『孤独から一番遠い場所』（2008年、作：鄭義信、演出：森新太郎）

『夏の方舟』（2012年、作・演出：東憲司）

『DOUBLE TOMORROW』企画・出演（2017年、作・演出：ファビアン・プリオヴィル、
ドラマトウルク：長島確）

『遺すモノ～檜山節考より～』（2021～25年、辰平役、劇団THEATRE MOMENTS公演）

『哄笑』（2024年、高村光太郎役、作：清水邦夫）

■作品紹介（「こころの広場」“ある作家の秘密”より抜粋）

芹沢光治良は、長い作家生活の中で三人の日本女性を描いた。

『愛と死の書』：夫に生きた若子

『巴里の死す』：子に生きた伸子

『狭き門より』：自己に生きた美子

本作『狭き門より』は、他の二作と異なり、明るく幸福な結末を迎える。

作者自身も驚き疑問を持ったが、「自己に生きる者は、境遇がどうであれ幸福である」という象徴として納得したという。

●「あらすじ」

病院を経営する祖父から逃れるように郷里を出た美子は、建築設計技師・原川敏と結婚。画家の卵だった経験を活かし、室内装飾家として夫を支えるが、子どもを望む美子と、建築物を“子ども”とする敏との価値観の違いに葛藤する。亡き父の足跡を訪ねる旅を通じて、美子は自分自身を見つめ直し、絵筆を再び握る決意をする。

